



Title	台湾活動記録（2017年3月12日～24日）
Author(s)	大坪, 慶之; 片山, 剛
Citation	近代東アジア土地調査事業研究ニューズレター. 2019, 9, p. 89-92
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/84916
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

(2) 台湾活動記録 (2017年3月12日～24日)

大坪慶之・片山 剛

3月12日(日) 【関空発⇒台北着】日本航空 JL813 便／台湾大学図書館(台北市大安区)
片山剛(大阪大学教授)・山本一(大阪大学招へい研究員)が、JFE21世紀財団の研究資

金による調査のため、関西国際空港から台北に到着。宿舎は、福華国際文教会館。到着後、午後の時間を利用して、台湾大学図書館にて調査を開始し、南京事件関係の研究文献を閲覧する。

3月13日（月） 国史館（新店・新北市新店区）・台湾大学図書館

午前中に、新店の国史館へ行く。今回の調査の主たる目的は、南京事件の被害に関して、特に中華門付近（門西）のデータを同館所蔵の南京土地登記文書から収集することである。まずは閲覧申請を試みるが、申請・閲覧の手続きシステムが変更になっており、檔案中の個人情報に関する審査のため、閲覧までに2週間程度かかることが判明する。そのため、午後は台湾大学図書館へと移動し、前日の作業を継続する。

この日、小林茂名誉教授の科研用務で、大坪慶之（三重大学准教授）が台北に到着。共同調査できることについては協力するべく、合流する。夕食後、今後の調査方法について話し合い、ひとまず南京事件の被害の大きかった地域を絞り込み、その結果、「門東」区域に対応する南京土地登記文書を抽出する作業を行ったのちに、閲覧申請を行った。

3月14日（火） 国史館（台北本館・台北市中正区）・台湾大学図書館

三名で国史館の呉密察館長を訪問し、本年2月に出版した『近代東アジア土地調査事業研究』を呉館長に個人用として贈呈する。その際に、資料の閲覧について相談する。閲覧を希望している資料は基本的に故人のもので個人情報には特に問題にならない可能性もあるとのことで、翌日以降に閲覧できるよう検討していただけることになる。

その後、台湾大学図書館へ移動する。片山は広東の土地調査関係の書籍、大坪は南京の八卦洲開発に関する史料、山本は南京事件についての研究書を閲覧する。

3月15日（水） 国史館（新店）・台湾大学図書館

新店の国史館へ行き、前日の検討結果を聞く。結論としては、現段階では原件の閲覧は不可だが、一部の資料について、デジタル撮影および個人情報の審査を早めに行うよう配慮していただけることになる。

その後、台湾大学図書館へ移動する。片山・大坪は、南京事件時の建物の被害に関する情報を収集する。山本は、南京事件の虐殺があったとされる地点について、関連書籍を閲覧する。

朝食時に同じく福華国際文教会館に宿泊する関西大学教授の陶徳民氏と偶然出会う。

3月16日（木） 中央研究院近代史研究所檔案館（台北市南港区）

国史館での調査ができないため、計画を変更して中央研究院近代史研究所檔案館にて、南京事件や江心洲・八卦洲に関する資料を閲覧する。昼食時に、同研究院人文社会科学研究中心 研究助技師の廖汝銘氏を訪問する。その際に、近年の地図のデジタル化状況や、以

前に山本がワシントンで閲覧したターゲットチャート（NL7号参照）と同種の地図の目録を見せていただくなど、情報交換を行う。また、范毅軍教授と中研院図書館へ『近代東アジア土地調査事業研究』を贈呈する手続きを廖氏に依頼する。

3月17日（金） 台湾大学文学院歴史系（台北市大安区）

片山・大坪・山本の三名が、呉密察館長が台湾大学文学院歴史系にて担当している学生を対象に、これまでの研究成果について発表を行う。

この日、小林茂（大阪大学名誉教授）が別科研の用務で台北に到着。共同調査を行うために合流する。

3月18日（土） 国立台湾図書館（新北市中和区）・国家図書館（台北市中正区）

片山・小林・大坪の三名は、国立台湾図書館にて調査を行う。片山は、『広東水利』『測量公報』を中心に、治水・水利と航空測量関係の資料を収集する。小林・大坪は、国民政府期の気象観測に関する報告書を閲覧し、当時の観測データを集める。山本は別行動をとり、国家図書館にて南京事件に関連する文献の調査を行う。

3月19日（日） 国立台湾図書館・台湾大学図書館

片山・小林の二名は国立台湾図書館へ行き、昨日の作業を継続する。大坪・山本は、台湾大学図書館にて、関連する資料の収集に務める。

3月20日（月） 中央研究院近代史研究所檔案館・国史館（新店）

この日は、二班に分かれて調査を行う。片山・山本は中央研究院近代史研究所檔案館に行き、16日に申請していた江心洲・八卦洲関係の資料を中心に閲覧する。その結果、江心洲（第38保の活水洲の第12～16号の土地の高度、堤防補強工事・涵洞設置の計画など）に関する図面等を写真撮影することができた。小林・大坪は国史館（新店）を訪れ、1940年代の中華民国の気象観測に関する資料を閲覧する。

3月21日（火） 中央研究院近代史研究所檔案館・国立台湾図書館

片山・小林・大坪の三名は、中央研究院近代史研究所檔案館へ行き、昨日までに申請していた文書を写真撮影する。山本は、台湾図書館にて『測量公報』などの写真撮影を行う。午後、片山は台湾図書館へと移動し、山本と合流する。小林・大坪は、中央研究院に残り、作業を継続する。

夜、中央研究院の范毅軍教授、廖法銘氏と会食する。

3月22日（水） 国史館（新店）・国史館（台北本館）・国立台湾図書館

昨夜、国史館に申請していた資料の一部について閲覧許可が下りたとの連絡が国史館か

ら届く。一件は新店で原件が、もう一件は台北でデジタルデータが閲覧可能との内容だった。そこで片山・山本は、まずは原件を見るべく撮影機材を持って新店へ赴く。しかし、「新店で原件が閲覧可能」との知らせは、国史館側のシステム上の誤作動で、すべて台北の本館で閲覧するよう言われる。そのため、滞在時間僅か 15 分で台北へ移動することになる。午後からは、台北の本館にて、デジタル画像にて南京登記文書を閲覧する。しかし、個人情報との関係で住所などの記載がかなり削除されていた。

小林は別行動をとり、国立台湾図書館にて、日曜日に申請していた資料を閲覧する。この日、大坪が帰国する。

3月23日(木) 国史館(台北本館)

片山・山本は国史館の台北閲覧室で南京登記文書のデジタル画像を閲覧し、必要な資料を収集する作業を継続。小林は、翌週の気象関係の研究報告の準備をし、午後の呉密察館長との面談に参加するべく、1時半に国史館に到着。午後2時半、小林教授を加えた三名で呉密察館長と約1時間半面談。近代東アジアの土地調査事業について意見を交換した。今後の国史館での資料調査についても相談する。夕刻、片山と山本は、中央研究院台湾史研究所・副研究員の林文凱氏に会い、『近代東アジア土地調査事業研究』を贈呈。夕飯は、魏徳文氏と会食。

3月24日(金) 【台北発⇒関空着】日本航空 JL816 便

朝、宿舎で知己を得た京都大学名誉教授の増田敏夫氏を見送ったあと、片山・小林・山本の三名が、調査を終え帰国する。
